

令和4年度の学校評価

＜本年度の重点目標＞					
1. 自ら学び考え行動する態度の育成					
2. 自立活動を含めた適切な指導と評価					
3. チャレンジ精神					
4. 地域連携の推進					
5. 基本的な生活習慣や社会人としてのマナーの育成					
6. 安全で安心できる学校					
学部	重点目標	具体的方策	留意事項	職員アンケートでの回答	反省・次年度へ向けて
幼小学部	基本的な生活習慣や社会人としてのマナーの育成	・幼児児童のトイレの使用や排せつに関する実態を捉え、課題を明確にした上で個々に応じた支援をする。 ・毎月発行される学年だよりを通して、取組の様子を保護者に伝え、共通理解を図る。 ・部別朝会や各学年の取組の中で幼児児童に正しいトイレの使い方について具体的に伝えたり、視覚支援を使って分かりやすくしたりして、それぞれが適切な方法を意識しながらトイレを利用できるようにする。	・トイレの使用や排せつについての目標を月ごとに定め、部別朝会での発表や掲示板の利用などを通して、幼児児童・教職員が目標を意識できるようにする。 ・毎月の目標や幼児児童の取組の様子を学年だよりに掲載することで、保護者がより意識できるようにする。	・掲示物や月刊目標にも掲げてあった。先生方が指導される場面をみかけた。 ・トイレの数が設備の故障など環境が不十分で、適切な指導を難しくしていると感じました。	・掲示板を利用して目標を見て分かるようにしてあることは児童、教師にとって有効であった。どの教師に聞いても、重点目標について理解があり、実際にその月の目標を知っていることも多かった。 ・各学年において、学年だよりに掲載がされていた。指導を踏まえて、学校での姿も伝えられていることも多い。 ・現在、部朝会では、実態に合わせた生活目標が扱われている。今後は、発展的な内容を取り入れて伝えられると良い。
	自ら学び考え行動する態度の育成	・タブレットなどを活用し、新しい生活様式に対応した方法で、幼児児童の興味関心を促しながら、小学部の目標を幼児児童に周知していく。 ・校務支援システムの掲示板を利用して他部へ、ホームページを利用して各家庭や施設へ日常の取組を伝えると同時に、家庭での支援にもつなげる。	・月目標の啓発を動画や写真にすることで、各学年が柔軟に取組を意識できるようにする。 ・月目標をホームページに掲載し、家庭への情報を発信する。	・小学部1年生でのタブレットの活用は難しい。 ・幼小学部がどのようにタブレット端末を活用しているのかわかることが難しかった。	・部朝会を動画に収録したり、それを視聴したりした。動画ならではの表現をすることができたことで、児童の興味関心を引くことにつながった。また、端的に表現して伝えられることで、児童の印象に残っていた。 ・ホームページを利用することで、誰でも見やすい状況をつくることができた。
中学部	自立活動を含めた適切な指導と評価	・自立活動の授業等を録画し、部や学年等で研修（ケース会等を含む）の機会を設けて職員の専門性の向上の一助にする。 ・三観点を含めた適切な評価を行うために、部や学年で話し合う機会を設定する。	・自立活動の指導の様子を録画し、学年会などで共有する。	・学年の実態を把握した上で、グループ自活などを効果的に行うことができたと思う。	・自立活動の授業の様子を撮影し、職員が自由に閲覧できる授業実践例として資料を作成した。 ・教科会において各教科・領域の年間指導計画の目標と内容の見直し、改善を行った。新学習指導要領に示されている育成を目指す資質、能力の内容に沿って各教科・領域の年間指導計画を再整理することができた。
	基本的な生活習慣や社会人としてのマナーの育成	・挨拶週間や挨拶運動を設定する。 ・「おはようございます」「失礼します」などの掲示を教室の入口に掲示する。 ・作業学習や実習等の特定の時間において、言葉遣いや丁寧な言い方、身だしなみチェックを指導する。	・生徒が教室に入出入りする際に、適切に挨拶ができていく確認し、必要に応じて言葉掛け等の支援を行う。 ・作業服の正しい着こなし方を写真を使って伝える。	・生徒会を中心に挨拶を促していた。	・学期ごとに挨拶週間を設定したり、校内に具体的な挨拶の例の掲示をしたりすることで、生徒の挨拶をすることへの意識を高めることができた。 ・作業学習や校内実習、産業現場等における実習などの活動を通して、社会人に必要とされる言葉遣いやマナーについての指導を行い、社会人としてのマナーの意識を高めることができた。
高等部	自ら学び考え行動する態度の育成	・主体的で対話的な深い学びの取組を様々な学習の場面に取り入れ、自発的な学びを促す。 ・見通しをもち、安心して学びにむかえるような学習環境をととのえる。	・本時の目標を明確にしたり、振り返りの時間を設定するなどして、部や学年で一貫した指導・支援を行う。 ・繰り返しを大切に、うまくいかなくても大丈夫と思える考え方や受け止め方の経験を重視する。		・様々な実態の生徒が在籍する中で、授業の目標や個別の目標を明確にして、生徒が生き生きと活動する姿を見ることができた。部や学年で共通理解を図ること、一貫した指導・支援を行うことについては、次年度も継続して行う。
	基本的な生活習慣や社会人としてのマナーの育成	・日々の授業や実習などにおいて、社会人としての自覚をもてるような体験や学習を多く取り入れる。 ・教師が手本となり、繰り返し実践を行う中で、正しい挨拶や言葉遣いの定着を図る。	・卒業後の生活と関連させ、社会人としてのマナーなど、より具体的な場面を示すことで、その必要性を生徒一人一人が実感できるようにする。 ・生徒が理解しやすいように、教師間で連携を図り、一貫した指導・支援を行う。	・教師が手本となるが、そうではない教師もいるのもっと徹底できるとよい。	・日々の授業において、基本的な生活習慣や社会人としてのマナーなどを取り上げて、働くことについての学びを深めた。校内実習や産業現場等における実習、職場体験などの実践的な活動を通して、生徒一人一人が「働く」ことをより身近に感じ、日常生活においても意識が高まった様子が見られた。 ・生徒の理解が深まるような教材の開発や支援具の共有など、教師間の連携、一貫した指導・支援を次年度以降も行う。
施設内教育 けやき	地域連携の推進	・主治医、病棟職員、その他関係諸機関との情報交換・共有や保護者との懇談などから児童生徒の実態把握に努め、指導・支援の充実を図る。 ・前籍校から個々の目標や実態に関する情報を、児童生徒の転入時に速やかに得るとともに、関わる職員全体で共有し、支援の在り方について検討する。 ・転出先職員と退院後の学校生活における有効な指導・支援等について連携を図る。	・教育相談や各カンファレンスを通して児童生徒の実態把握に努める。 ・病棟職員と連携して児童生徒に関する情報共有を行う。 ・児童生徒転入時は、全籍校からの情報を整理して職員間で共有するよう努める。 ・退院前カンファレンス等を通して得た児童生徒に関する情報を転出先職員と共有するよう努める。	・通信などの回覧を通して学習の様子が変わった。 ・人的にゆとりがあればより達成できたと思います。	・けやき学級では、小中学部が連携して共通理解のもと児童生徒に対応することが常時必要である。そのため、朝の打ち合わせでの連絡や教育相談等の記録、カンファレンスの記録等の回覧、授業前の引き継ぎ等を行ってきた。今後も教職員間の連携を密に行う必要がある。
	安全で安心できる学校	・災害時の避難方法や探索時のマニュアルの見直しをし、病棟や学校と連携した訓練を行う。 ・施設内教育の児童生徒の実態や学習への取り組み、学習内容などについて本校職員に周知する。	・災害時の避難方法や探索時のマニュアルの見直しをし、病棟や学校と連携した訓練を行う。 ・児童生徒の実態や取り組み等を本校職員に周知してもらうため、通信を作成して回覧する。	・けやき学級独自の避難訓練など実施している。	・実際の災害時や探索時に連携していくためにも、病棟や本校との協力体制を深め、子どもたちの安全を守るようにする必要がある。
施設内教育 ばと・中央	自立活動を含めた適切な指導と評価	・児童生徒の個々の目標や実態に関する情報を、保護者との懇談や前籍校からの情報を得て、関わる職員全体で共有し、支援の在り方について検討する。学期ごと学習状況や支援方法を職員間で確認、検討し充実を図る。	・児童生徒一人一人に必要とされる力が育つよう現状に即した支援を心掛ける。	・前籍校との情報、資料のやり取りに時間がかかって十分に活用できないことがある。	・現状では、前籍校との資料のやり取りには時間がかかっている。手続きが簡略化されたり迅速に対応したりすることで、学校間での資料が早く届くことが理想だが、それぞれの学校の事情によって難しいことも考えられる。今後も必要に応じて担当職員間で電話での情報交換を行うことで補っていけるとよい。
	地域連携の推進	・主治医、病棟職員、その他関係諸機関との情報交換・共有により児童生徒の実態把握に努め、指導・支援の充実を図る。	・送迎時の病棟職員との受け渡しや連絡帳でのやりとりを基本にし、さらに定期的に行われる病棟職員との連絡会等やハビリの見学等により連携を深める。	・情報共有に努めたが、組織の違いからくる認識の違いを考慮する必要がある。	・こぼと棟、中央病院との連絡会で、情報の共有や確認をしているが、病棟職員全体として統一した情報共有は難しいことがあった。連絡会等の場だけではなく、連絡事項の確認や変更については必要に応じてその都度、電話や文章などでお互いのために確認し、円滑な教育活動につなげられると良い。
各重点目標の具体的方策と留意点					
1. 自ら学び考え行動する態度の育成					
担当分掌	具体的方策	留意事項	職員アンケートでの回答	反省・次年度へ向けて	
研修部	・令和3年度まで取り組んできた研究の成果を指導、支援に生かせるように情報発信をする。 ・育成を目指す資質能力を身に付けることができるように、年間指導計画の目標や内容を整理する。	・積極的にアクティブラーニングの実践を取り入れ、指導の充実を図る。 ・教師同士の授業参観の機会を設定できるような体制づくりに努める。 ・各教科等の授業において、タブレット端末を活用しやすい環境を整備する。	・事務処理に負担が増えないようにして欲しい。	・研修部の業務内容の整理を行い、業務負担の軽減をした。しかし、業務によっては、事務的な手続きや作業量が多いのが現状である。次年度に向けては、業務量が多い場合は、担当者同時業務分担を行い、軽減を図っていききたい。そのためにも、業務の引継ぎ資料、手順書、業務分担表の作成を丁寧に行っていく。	
視聴覚部	・児童生徒用タブレット端末の、個別の課題や授業での簡単な使用例を提示するとともに、使用頻度が低いところに対して、聞き取りを行い改善できるような確認をする。 ・小規模の講習会や、研修部と連携しての夏季休業中の講習会などを計画、実施する。			・夏季休業中の現職研修及び自主研修で Teams を取り上げた。まだ小規模ではあるが、Teams の利用者を今後も増やし、会議や行事等で問題なく利用できる状態にしていきたい。 ・小規模講習会の担当者が不在のため実施することができなかったため、次年度以降は複数で担当し、止まることのないようにする。	
教務部	・各教科で個人タブレット端末を取り入れた授業実践を積極的に行う。 ・学年・学部間を超えた教師同士の授業参観の期間を年2回設定する。		・学年、部を超えた授業参観は、初任者は行えたいと思う。	・タブレット端末を活用した授業については、各教科等で積極的に活用することができた。 ・新型コロナウイルス感染症予防の観点から、部を越えた授業参観に踏み込めなかったのが現状である。来年度は教育活動の制限が緩和されることも考え、まずは年に1度、1週間程度の自由に参観できる期間を設定する。	
2. 自立活動を含めた適切な指導と評価					
担当分掌	具体的方策	留意事項	職員アンケートでの回答	反省・次年度へ向けて	
自立活動部	・自立活動の授業の様子を動画撮影し、共有フォルダに入れ、授業計画、改善の参考となるようにする。 ・職員の専門性の向上を図るため、自立活動に関する情報をまとめた資料を作成し、令和5年度の初めに提示できるようにする。	・自立活動に関する情報を発信し、指導の充実を図る。 ・新学習指導要領に基づいた指導、評価を的確に行えるように指導計画を立てる。	・取り組んでいるので、これからの検証が大切になると思います。	・初年度ということで公開している動画が少なく、職員への周知も十分ではなかった。動画データの所在や活用方法を分かりやすく発信していく必要がある。 ・授業の動画公開を継続的に実施することや、次年度配布予定の自立活動の手引きにより、計画・改善の参考となる資料の充実を図る。	
教務部	・三観点を含めた指導計画の整理を行う。			・年間指導計画も含めて、教科会等で三観点の整理を進めていく。また、個別の指導計画の様式についても学校で統一した様式を検討する。	
3. チャレンジ精神					
担当分掌	具体的方策	留意事項	職員アンケートでの回答	反省・次年度へ向けて	
視聴覚部	・ZoomやTeams等で使用できる広角カメラ、会議用マイク等の紹介を行い、それらの活用を推進してより充実した学習活動ができるようにする。	・ICT等を活用し、コロナ禍における新たな教育活動への取組を模索する。 ・ビデオ通話等を活用して交流活動の機会を多く設定する。	・使用できる環境がないです。	・小規模講習会で取り上げる予定だったが、結果的に実施できなかった。次年度の早い時期には実施したい。カメラ、マイクについては職員室放送室にあり、hiroba-Tに貸出庫があるので、広く利用してほしい。	
自立活動部	・自立活動の備品、消耗品、個人が作製した教材・教具を学習の目的別に整理し、全職員が閲覧可能なデータベースを作成する。			・データベースを作成し、検索できるようにシステムを構築した。引き続き、内容の充実を図っていく。 ・職員への周知が十分ではなかった。データベースの所在や活用方法を分かりやすく発信していく必要がある。	
教務部	・日常生活全般を通して、また、生活単元学習及び総合的な学習の時間等を通してSDGs についての取組を行う。 ・ICTを活用しての交流活動について充実を図る。		・活用する環境がないです。	・総合的な学習の時間や総合的な探究の時間を通して、SDGs について取り組んだ。 ・ICTを活用しての交流活動など、小中学部ではオンラインで行った。高等部は部活動交流のため活用できていない。	

4. 地域連携の推進				
担当分掌	具体的方策	留意事項	職員アンケートでの回答	反省・次年度へ向けて
研修部	<ul style="list-style-type: none"> 研究の取組をホームページにおいて情報発信をする。 社会に開かれた教育課程を目指し、グランドデザインの作成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを定期的に更新し、本校の教育についての情報発信を積極的に行う。 地域の学校や福祉施設等との繋がりを大切にしながら、必要な連絡調整を行い、地域社会との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分がホームページを閲覧してなかった。グランドデザインにこだわらず進める方向性がよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページでの情報発信を実施できなかった。次年度に向けて、情報発信の方法を検討し、視聴覚部とも連携を図っていききたい。
視聴覚部	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの写真やそれに付随する文章など、更新内容自体は関係する職員に依頼して担当してもらい、更新作業は集約して更新スピードを上げるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 具体的な方策で方針は示したが、今年度は大きく更新したことはなかった。今後も他の校務部と連携を取って情報発信を行う。 	
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ホームページに、動画等の情報発信をする。(進路学習、作業学習、校内実習等々) 職業安定所や関係諸機関と連携し、企業及び福祉事業所を対象とした学校見学を実施して学校の様子を知ってもらい、社会や地域への円滑な移行に向け、連携を強化する。 		<ul style="list-style-type: none"> ホームページでは同窓会等で学校の様子を動画で流し、学校の現状を伝えることはできたが、進路に関する授業等の動画による情報発信ができず、今後検討して進めていきたい。 就労先や関係諸機関と連携し、移行支援会議を開き、社会や地域への移行を進めることができた。また企業及び福祉事業所を対象にした学校見学会を開き、生徒の様子をみてもらい、新たな就労や実態、支援の理解につながった。今後も関係諸機関の連携や学校見学の実施を進めていきたい。 	
地域支援部	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達について悩みをもつ保護者や、地域の小・中学校・高等学校等に対して、発達障害児等支援・指導検討会や巡回相談やあゆみ相談を行ったり、ホームページを通して特別支援教育についての情報発信を行ったりして、センター的機能についての役割を果たす。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分がホームページを閲覧してなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害児等支援・指導検討会や巡回相談、あゆみ相談、などで、困り感のある児童生徒について話し合いをもつことができ、子どもの理解に深めることができた。ホームページでの情報発信を実施することができなかった。情報発信する内容を検討し、発信の仕方を視聴覚部と連携していききたい。
6. 安全で安心できる学校				
担当分掌	具体的方策	留意事項	職員アンケートでの回答	反省・次年度へ向けて
保体部	<ul style="list-style-type: none"> 早寝早起き朝ごはんの重要性や、規則正しい生活リズムの定着に向けた取り組みを通して指導、支援の充実、生活習慣の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や丁寧な言葉遣い等の基本的なマナーについて、学校生活全般を通して体験的に身に付けられるような指導を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 保健や給食に関する掲示物、保健だより、食育だよりなどを通して、けがの防止や望ましい生活習慣などについての情報を積極的に発信できた。集会が制限されている現状にあり、集会での保健指導を学年に任せきりになってしまった。
指導部	<ul style="list-style-type: none"> 学校内外におけるルールやマナーについて考える機会を設け、学校生活全般を通して自ら判断し正しい行動ができる支援を実践する。 		<ul style="list-style-type: none"> 年間をとおして休業日の過ごし方について保護者へ促すようにするとともに、部・学年の実態に応じた促し、指導ができた。次年度は、新型コロナウイルス感染症を確認しながら部の集会、学年集会の再開をとおして支援できるようにしたい。 	
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 将来の社会生活、働くことに必要な力として、健康管理や規則正しい生活リズムの定着に向けた指導、支援を作業学習や進路学習にて行っていく。 社会人のマナーとして、元気な挨拶や身だしなみ、姿勢・態度、礼儀、丁寧な言葉遣いの大切さを伝えて、普段の学校生活から実施していくように促す。 		<ul style="list-style-type: none"> 社会生活や働くことに必要な力として、休まない強い体と気持ちをもつために健康管理や規則正しい生活の必要性を作業学習や進路学習において伝えることで、生徒が前向きに意識して生活するようになってきた。 社会人のマナーとして、挨拶や身だしなみ、姿勢・態度、礼儀、丁寧な言葉遣いの大切さを伝えて、自分のこととして普段の生活から実践する生徒が増えた。今後も引き続き指導していききたい。 	
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 学用品購入の手順や購入できる物品の提示を分かりやすくし、計画的に購入ができるようにする。 各校務の文書ファイル表示を統一し、書類棚を整理して利用しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学用品費の購入手続きにおいて、庶務部と連携をとりながら進めていく。 他校総務部の情報を参考にしながら、書類棚の整理を進める。 必要に応じて危機管理マニュアル等の内容の更新を行う。 感染症予防のために必要な安全対策を徹底する。 		<ul style="list-style-type: none"> 学用品の購入手続きにおいて、庶務部と連携を取りながら進めた。差引簿(高の教科等は学用品費精算書)を提出してもらうことで、購入額が予算を上回らないように残高を確認しながら、購入することにつながるようになった。今後も学用品費の運用が円滑できるように工夫していききたい。 総務部が一括して、県指定行政文書ファイルの背表紙を印刷することで、各校務文書の棚が見やすくなった。
保体部	<ul style="list-style-type: none"> 安全安心な活動を通して、けがの防止や病気の対応に向けた指導支援の向上を目指す。 愛知県医療療育総合センターや近隣病院、学校医との連携を密に、連絡相談しやすい環境作り組織力を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> 怪我につながる学校環境の整備が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 重大な事故やけがについては、再発防止のため、朝礼やグループウェアを活用して職員への情報提供を行うとともに、直ちに危険因子の除去を行った。 医療療育センターと連携した「歯の健康教室」や、学校医との「こころの健康相談」など、新たな取組やコロナ対策として中止していた取組を進めることができた。
指導部	<ul style="list-style-type: none"> 全校共通の「約束」を幼児児童生徒に周知し、いじめは絶対に許されないという意識を醸成する。 「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの定義や認知についての共通理解を職員に徹底し、いじめの防止と早期発見に努める。 防犯、防災教育の充実、訓練や研修の計画的な実践と内容等の創意工夫によって、防犯、防災に対する幼児児童生徒及び職員の意識を高める。 		<ul style="list-style-type: none"> いじめに関しては具体的対応など情報発信が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全般において、各担任の協力で、いじめについての防止はできた。友達同士のSNSトラブルや付き合い方についての問題の早期発見にも努めることができた。 防災防犯について、計画立案の工夫により幼児児童生徒及び教員の意識を高めることができた。次年度さらなる充実にも努め保護者を高め意識を高めていきたい。
地域支援部	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関や福祉サービス等について集約し情報発信したり、活用できる地域の資源に職員や保護者をつないだりし、他機関との連携に努める。 			<ul style="list-style-type: none"> 様々な担任の先生の相談を受け、状況に応じて各関係機関につながる事ができた。かわら版を通して情報発信を2回行うことができた。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> 内部評価表による本年度の評価結果について 保護者アンケートの結果について 在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化及び教職員のメンタルヘルスの保持に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> 職員のライフワークバランスに十分に配慮しながら業務改善を推進する。 	